

衛研第1-11号  
平成27年 6月17日

感染症発生動向調査事業  
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当  
電話 0493-59-9325  
FAX 0493-59-9613  
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

## 感染症患者発生情報（週報）

### 埼玉県内情報 平成 27 年 第 24 週（平成 27 年 6 月 8 日～平成 27 年 6 月 14 日）

#### 今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類、二類（結核を除く）の届出はなかった。三類感染症は、腸管出血性大腸菌感染症 6 人の届出があった。四類感染症の届出はなかった。五類感染症は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 人、急性脳炎 1 人、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 1 人、破傷風 2 人、麻しん 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**咽頭結膜熱**(0.87 1.16)の定点当たり報告数は前週より大きく増加した。保健所別では、川口(1.19 2.44)保健所管内で大きく増加し、越谷市(2.63)、鴻巣(2.00)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、1 歳～5 歳で全体の 74.7%を占めている。**伝染性紅斑**(1.39 2.26)の定点当たり報告数は前週より大きく増加した。保健所別では、東松山(0.20 2.50)、幸手(1.67 3.78)、さいたま市(2.52

4.33)保健所管内で大きく増加し、加須(3.33)保健所管内からの報告が多い。**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(4.43 4.76)の定点当たり報告数は前週より増加し、前年までの同時期よりかなり多い状況にある。保健所別では、本庄(8.25)、熊谷(7.78)、川越市(7.13)保健所管内で多い状況が続いている。年齢階級別では、全ての階級から報告があった。**手足口病**(1.56 2.04)の定点当たり報告数は、前週より増加した。保健所別では、東松山(1.40 4.50)、坂戸(1.60 4.00)、草加(1.64 3.36)保健所管内で大きく増加し、朝霞(3.40)保健所からの報告が多い。**流行性耳下腺炎**(0.89 0.84)の定点当たり報告数は前週より微減したが、依然、前年までの同時期と比較して多い状況にある。保健所別では、東松山(3.50)、越谷市(2.63)、加須(2.33)、春日部(2.33)保健所管内からの報告が多い。眼科定点対象疾患では、**急性出血性角結膜炎** 1 人、**流行性角結膜炎** 38 人の報告があり、後者は前週(28 人)より大きく増加した。基幹定点報告対象疾患では、**無菌性髄膜炎** 1 人、**マイコプラズマ肺炎** 4 人、**クラミジア肺炎** 2 人、**感染性胃腸炎(ロタウイルス)** 1 人、**インフルエンザ(入院)** 1 人の報告があった。

#### < 全数把握対象疾患の患者情報 >

<b>一類感染症</b>	報告なし	
<b>二類感染症</b>	報告なし（結核を除く）	
<b>三類感染症</b>	腸管出血性大腸菌感染症	6 人（病型 患者 4 人、無症状病原体保有者 2 人、血清型 0157 4 人、026 1 人、不明 1 人）
<b>四類感染症</b>	報告なし	
<b>五類感染症</b>	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1 人（菌種 <i>Citrobacter</i> sp.）
	急性脳炎	1 人（病原体 不明）
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 人（病型 孤発性）
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1 人（血清群 B 群）
	侵襲性肺炎球菌感染症	1 人
	破傷風	2 人
	麻しん	1 人（病型 臨床診断例）

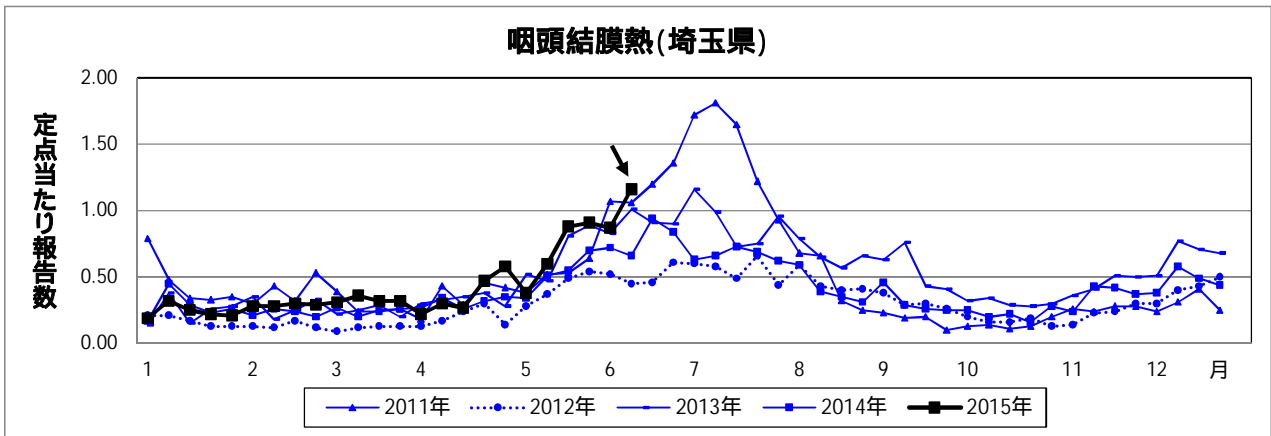
1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。  
衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613  
e-mail: [p5349952@pref.saitama.lg.jp](mailto:p5349952@pref.saitama.lg.jp) URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>) で御覧になれます。

< 定点把握対象疾患の患者情報 >

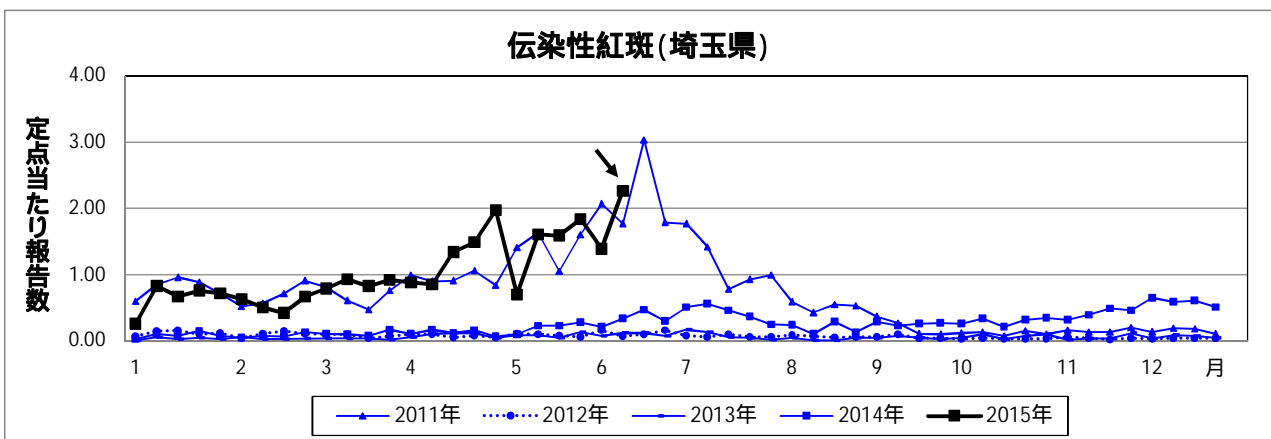
**咽頭結膜熱**

秩父保健所を除く県内 15 保健所から報告があった。保健所別では、越谷市(2.63)、川口(2.44)、鴻巣(2.00)保健所管内からの報告が多い。



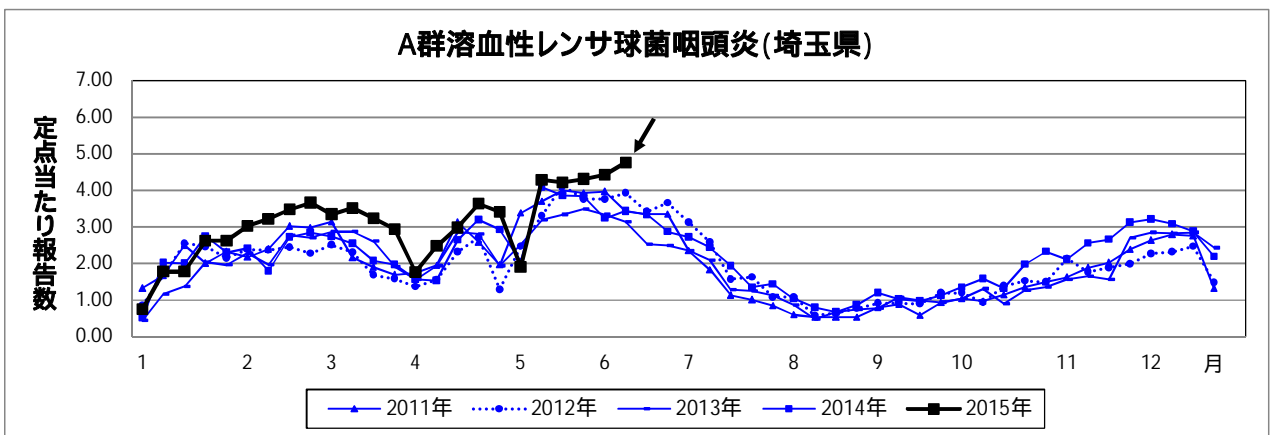
**伝染性紅斑**

秩父保健所を除く県内 15 保健所から報告があった。保健所別では、さいたま市(4.33)、幸手(3.78)、加須(3.33)保健所管内からの報告が多い。



**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**

県内全保健所から報告があった。保健所別では、本庄(8.25)、熊谷(7.78)、川越市(7.13)保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)  
(第24週)

(2015年 6月16日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
<b>一類感染症</b>					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
<b>二類感染症</b>					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
<b>三類感染症</b>					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢		2	パラチフス		1
腸管出血性大腸菌感染症	6	30			
<b>四類感染症</b>					
E型肝炎		2	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
ウエストナイル熱			ニパウイルス感染症		
A型肝炎		7	日本紅斑熱		
エキノコックス症			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		
キャサヌル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
サル痘			マラリア		
重症熱性血小板減少症候群			野兎病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱			レジオネラ症		21
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		6	ロッキー山紅斑熱		
東部ウマ脳炎					
<b>五類感染症</b>					
アメーバ赤痢		15	侵襲性肺炎球菌感染症	1	47
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)		2	水痘*		5
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	11	先天性風しん症候群		
急性脳炎	1	15	梅毒		32
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		4
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	3	破傷風	2	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	5	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群		14	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		1
ジアルジア症		1	風しん		4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		7	麻しん	1	4
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1
<b>指定感染症</b>	該当疾患は無し				

水痘\* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	2			

累計は診断日で集計

\* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

## 結核患者発生状況(5月分)

5月の報告数は、患者77人、無症状病原体保有者20人、疑似症3人の計100人で前月の88人より増加した。患者で最も多い年齢階級は80歳以上であった。

### 年齢階級別報告数

この情報は、感染症法に基づく届出について集計したものです。

平成27年6月17日

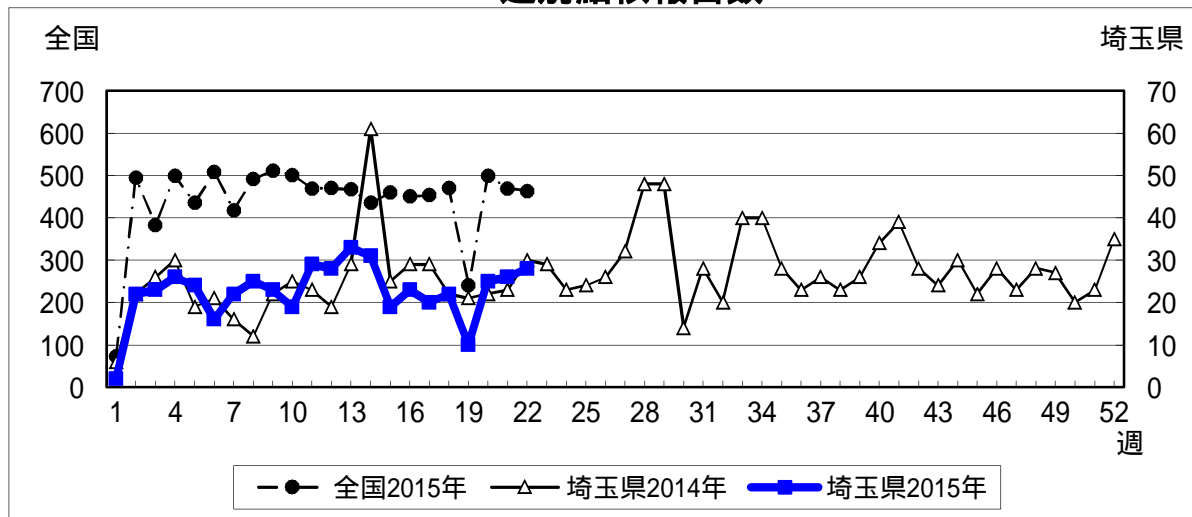
年齢階級 \ 診断類型	患者	無症状 病原体保有者	疑似症	計	
				今月診断分	2015年累計*
0～9歳	0	1	0	1	14
10～19歳	1	2	0	3	8
20～29歳	8	3	0	11	40
30～39歳	3	2	0	5	56
40～49歳	8	2	0	10	55
50～59歳	5	1	0	6	35
60～69歳	16	5	0	21	90
70～79歳	14	3	2	19	84
80歳以上	22	1	1	24	112
計	77	20	3	100	494

6月 16日

15 時集計

\*2015年累計:1月からの累積届出数

### 週別結核報告数



\*NESID感染症発生動向調査WISH公開データ



感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第24週 平成27年6月8日～平成27年6月14日)

	年齢別																				
	合計	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳～
インフルエンザ #1	6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	5	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	186	-	12	41	26	26	21	25	9	9	9	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	761	1	3	20	28	69	110	83	112	84	85	63	73	4	26	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	1,477	15	101	165	115	173	151	117	99	102	75	77	151	25	111	-	-	-	-	-	-
水痘	89	-	3	8	16	7	12	11	6	14	6	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	327	1	15	88	60	56	53	14	12	11	5	4	3	1	4	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	362	-	4	6	16	44	65	55	55	31	37	26	16	2	5	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	121	2	49	57	11	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	66	-	4	20	12	7	8	6	3	3	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	135	-	-	3	6	14	23	26	19	14	9	5	12	1	3	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	38	-	1	7	1	1	1	3	1	-	1	-	2	-	4	6	2	3	3	2	2
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	2	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数 (- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

# 全国・関東情報

## 第 22 週

( 5月25日～5月31日 )

平成27年6月17日

インフルエンザの定点当たり報告数は第17週以降減少が続いている。都道府県別の上位3位は沖縄県(4.05)、鹿児島県(1.65)、福井県(1.22)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は32例と前週と比較して減少し、15道府県から報告があった。

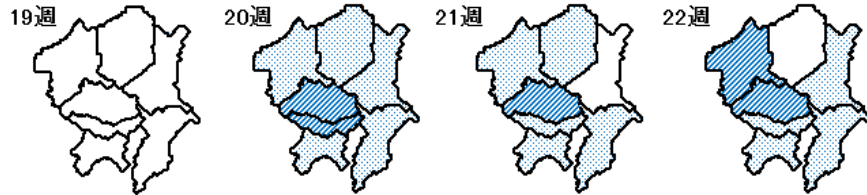
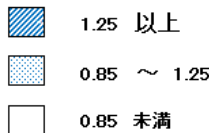
RSウイルス感染症の報告数は302例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約80%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は新潟県(1.61)、北海道(1.57)、島根県(1.30)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥取県(7.84)、愛媛県(5.92)、北海道(5.24)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は大分県(17.00)、山形県(14.50)、福井県(13.68)である。水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は大分県(1.67)、滋賀県(1.06)、富山県(0.90)である。手足口病の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は徳島県(11.57)、香川県(6.86)、熊本県(5.52)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は3週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は滋賀県(2.78)、埼玉県(1.84)、大分県(1.67)である。百日咳の定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位2位は沖縄県(0.09)、栃木県(0.08)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は富山県(1.00)、長野県(0.73)、青森県(0.50)、高知県(0.50)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は2週連続で減少した。31道府県から148例報告があり、年齢別では0歳(12例)、1～4歳(105例)、5～9歳(27例)、10代(2例)、50代(1例)、70歳以上(1例)であった。

### <関東情報>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、埼玉県(1.84)、群馬県(1.32)からの報告が多い。

### 伝染性紅斑



平成27年 22週

	全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数 1,952 定点当たり 0.40	163 0.11	23 0.19	11 0.14	19 0.19	17 0.07	43 0.21	36 0.09	14 0.04
RSウイルス感染症	報告数 302 定点当たり 0.10	30 0.03	2 0.03	1 0.02	-	5 0.03	3 0.02	15 0.06	4 0.02
咽頭結膜熱	報告数 2,490 定点当たり 0.79	685 0.73	39 0.52	20 0.42	14 0.23	145 0.91	103 0.78	243 0.93	121 0.58
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数 11,329 定点当たり 3.60	3,633 3.85	255 3.40	139 2.90	262 4.37	685 4.31	473 3.58	1,107 4.24	712 3.42
感染性胃腸炎	報告数 22,606 定点当たり 7.17	6,222 6.60	430 5.73	149 3.10	424 7.07	1,326 8.34	757 5.73	1,911 7.32	1,225 5.89
水痘	報告数 1,668 定点当たり 0.53	583 0.62	48 0.64	11 0.23	17 0.28	113 0.71	56 0.42	171 0.66	167 0.80
手足口病	報告数 6,322 定点当たり 2.01	1,009 1.07	31 0.41	82 1.71	131 2.18	208 1.31	65 0.49	270 1.03	222 1.07
伝染性紅斑	報告数 2,718 定点当たり 0.86	1,143 1.21	70 0.93	40 0.83	79 1.32	292 1.84	137 1.04	313 1.20	212 1.02
突発性発しん	報告数 2,074 定点当たり 0.66	704 0.75	36 0.48	37 0.77	33 0.55	112 0.70	98 0.74	219 0.84	169 0.81
百日咳	報告数 65 定点当たり 0.02	20 0.02	1 0.01	4 0.08	-	3 0.02	1 0.01	10 0.04	1 0.00
ヘルパンギーナ	報告数 1,166 定点当たり 0.37	171 0.18	9 0.12	6 0.13	13 0.22	34 0.21	22 0.17	56 0.21	31 0.15
流行性耳下腺炎	報告数 1,338 定点当たり 0.42	445 0.47	47 0.63	29 0.60	19 0.32	173 1.09	59 0.45	68 0.26	50 0.24
急性出血性結膜炎	報告数 8 定点当たり 0.01	5 0.03	-	-	-	3 0.08	1 0.03	-	1 0.02
流行性角結膜炎	報告数 365 定点当たり 0.53	143 0.72	16 0.94	4 0.33	10 0.71	28 0.72	26 0.76	18 0.47	41 0.91
細菌性髄膜炎 #2	報告数 12 定点当たり 0.03	4 0.05	-	-	-	-	2 0.22	2 0.08	-
無菌性髄膜炎	報告数 21 定点当たり 0.04	4 0.05	-	2 0.29	-	1 0.10	-	1 0.04	-
マイコプラズマ肺炎	報告数 96 定点当たり 0.20	12 0.15	2 0.15	-	1 0.13	1 0.10	1 0.11	7 0.28	-
クラミジア肺炎 #3	報告数 3 定点当たり 0.01	1 0.01	-	-	-	-	-	1 0.04	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数 148 定点当たり 0.31	6 0.07	-	-	1 0.13	-	1 0.11	-	4 0.44

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-:0.00)



[総合トップ](#) > [県政情報・統計](#) > [県概要](#) > [組織案内](#) > [保健医療部](#) > [保健医療部の地域機関](#) > [衛生研究所](#) > [感染症情報センター](#) > [感染症の流行情報](#) > [感染症発生動向調査](#) > [感染症発生動向調査 2015年](#) > [感染症の流行状況 2015年 第24週](#)

感染症発生動向調査 2015年

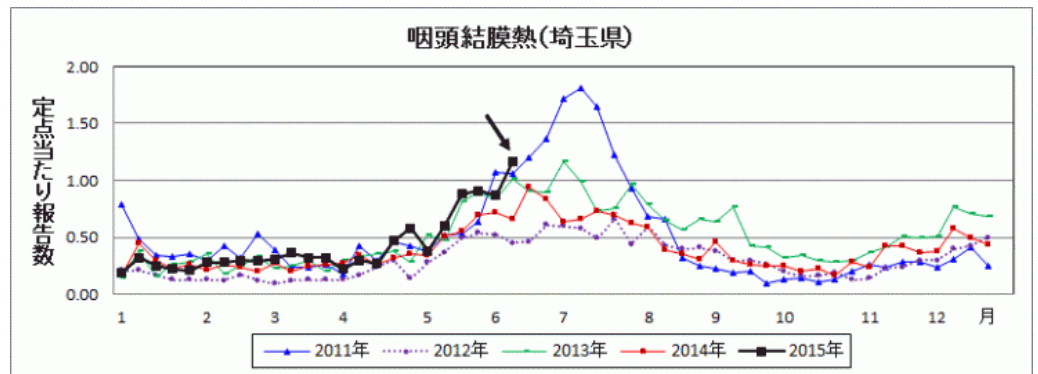
- [感染症の流行状況 2015年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第23週](#)

感染症の流行状況 2015年 第24週

2015年第24週（平成27年6月8日～6月14日）の要点 平成27年6月17日

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は、前週より大きく増加しました。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
<a href="#">インフルエンザ</a>			<a href="#">伝染性紅斑</a>		
<a href="#">RSウイルス感染症</a>			<a href="#">突発性発しん</a>		
<a href="#">咽頭結膜熱</a>			<a href="#">百日咳</a>		
<a href="#">A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</a>			<a href="#">ヘルパンギーナ</a>		
<a href="#">感染性胃腸炎</a>			<a href="#">流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)</a>		
<a href="#">水痘(みずぼうそう)</a>			<a href="#">急性出血性結膜炎</a>		
<a href="#">手足口病</a>			<a href="#">流行性角結膜炎</a>		

\*1. 推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 \*2. 推移は2週間前からの傾向を示します。( :増減無し、 :増加、 :減少) \*3. 流行状況は今週の流行を示します。(小さい、 、 大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン

お問い合わせ

**保健医療部 衛生研究所 感染症疫学情報担当**  
 郵便番号355-0133 埼玉県比企郡吉見町江和井410番地1  
 電話：0493-59-9325  
 ファックス：0493-59-9613

[お問い合わせフォーム](#)